

令和5年度 学校評価（学校関係者評価）報告書

このことにつきまして、下記のとおり報告します。

雲仙市立千々石第二小学校
校長 酒井 健一郎

記

<p>学校教育目標</p> <p>○ 自分の頭で考える子ども ○ みんなでつながる子ども ○ 進んで行動する子ども</p>	<p>「木場に学び、心豊かで たくましく生きる 子どもの育成」</p>	<p>学校経営方針</p>	<p>国・長崎県及び雲仙市の教育方針を受け、児童や家庭、地域の実態を踏まえ、本校がこれまで積み上げてきた伝統や教育、研究の成果等を重んじ、極小規模の強みを発揮しながら、子どもたち一人一人が思い描く未来の実現や未来社会を切り拓くために求めらるる資質・能力を明確にして、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を備えた児童を育成する。 また、今一度、木場のよさや文化を理解させ、維持・継承していく気持ちを高めさせていきたい。このことが、地域に愛着と誇りをもち、地域を担う人材育成の「ふるさと教育」の推進につながることを考える。 そこで、教育に携わる者は、見識を深め、自らの資質・能力の向上を図る。また、深い人間愛と教育への使命感、責任感をもち、優れた指導力を発揮しながら、本校教育の充実・発展のために、プロの教育者としての教育実践を積み重ねていく。</p>
<p>自校の現状</p>	<p>本校の児童は明るく純朴で、人懐っこい児童が多い。学習に対しては、与えられた課題に真面目に取り組んでいる。全島遊びや放課後の学友会では、楽しく活動はするものの、約束事やルールが守れなかったりすることが時折あり、高学年を中心とした集団での自治力に課題がある。また、多様な価値観に触れたり、お互いのよさを認めたり、友達の言動を大らかな気持ちで受け止めたりする寛容性がやや弱い傾向にある。雲仙市学力調査の結果では、国や雲仙市全体と比較し、正答率が全体的に低く、「学力向上」は喫緊の課題となっている。</p>	<p>重点努力目標</p>	<p>①木場に学び 木場のよさを知るとともに、自分のよさや可能性を認識し自分の頭で考える力 ・自分の頭で考える力 ・自分の学びを振り返る力 ・自己調整力 ②心豊かで あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働していく力 ・寛容の心 ・感謝の心 ・自治力 ③たくましく生きる やってみたいことや正しいと思ったことを進んで行動で表す力 ・積極性 ・実践力 ・自己肯定感</p>

領域	重点度	番号	評価項目（努力事項）	達成度	自己評価		学校関係者評価	
					成果 又は 課題	評価	意見・助言等	評価
I 教育課程の改善と充実	★	①	学習指導要領の具現化	○	<p>①②学力向上を目指し、研究主任を中心に校内研究に取り組んできた。全学級で研究授業を行い、授業改善に努めたり、毎週授業改善チェックシートを活用し反省を生かして授業に臨んだりしてきた。しかし、12月の雲仙市学力調査では、雲仙市の平均を下回った。 ③児童の実態に応じて課題を与えたり、毎週2回端末を持ち帰ってのドリル学習に取り組ませたりすることができた。 ④全教職員が1人1回ずつ講師として自身の経験を基にした現職教育を行うことができた。 ⑤全児童が参加した10月のふるさと地域学習では、雲仙自然を守る会の講師を招き、地元雲仙の自然について体験的学習を実施することができた。しかし、地域人材を活用した体験的な学習を設定することがあまりできなかったため、地域人材活用をカリキュラムに盛り込み、より質の高い学習につなげる必要がある。 ⑥栄養教諭や学校栄養職員を中心として、年間を通して校内の食育指導の充実を図ることができた。11月には持久走大会に向けての走り込みを行ったり、2月には長縄跳びや短縄跳びに熱心に取り組むことができた。 ⑦家庭での親子読書の取組やお薦めの本の紹介など、読書週間での様々な取組により、読書に関心をもち、寸暇を惜しんで読書に親しむようになってきた。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な科目があっても、朝の時間や昼休みを利用して、個別に指導されている。 ・個性が違ふ児童一人一人に寄り添い、指導されている。 ・10年ほど前、千二小の学力は向上しているとの話を聞いたことがあった。現在、人数の減少が学習への張り合い、やる気が乏しくなっているかとも思った。 ・学力向上のために頑張ってもらいたい。 	B
	★	②	学力向上のための取組	▲				
		③	学習規律の定着	◎				
	★	④	教職員研修の充実	◎				
	★	⑤	生活科・総合的な学習の時間の充実	△				
		⑥	体力・健康づくりの推進	○				
		⑦	読書指導の充実	○				
II 安全・安心な学校づくりの推進	★	①	心の教育の充実	◎	<p>①「SNSノートながさき」を活用し、情報モラル教育を行うことができた。また、児童や教職員の頑張りやよさを玄関に掲示し、個々の自己肯定感を高めた。 ②各学級の児童の様子について、校内生活委員会の中で情報共有し、対応策等について話し合う機会をつくることができた。 ③学校生活アンケート実施後、アンケート結果を基にどの学級でも個人面談を行い、児童理解に努めた。学級担任に限らず、どの教職員も児童や保護者からの相談に丁寧に対応することができた。 ④いじめ防止アンケートでは、重大ないじめ事案は出なかった。いじめにつながる恐れがあるような事案に対して、教職員間で情報共有し早期解消することができた。 ⑤年3回の避難訓練を実施し、「自分の身は自分で守る」という意識が高まった。特に、不審者対応避難訓練では、体験活動を取り入れ、いざというときの対処法等を身に付けさせることができた。 ⑥毎月安全点検を実施し、児童の安全確保に努めた。 ⑦家庭での生活を振り返る「生活チェック」を実施したことで、規則的な生活習慣を見直す機会となった。また、学校保健委員会で様々な講話を行うことで、保護者の意識が高まってきた。学校だけでなく学校での様子を地域へ知らせたり、学級通信で児童の様子を保護者へ知らせたりすることができた。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個人のよさを玄関に掲示しているのは、一人一人のよさを知ることができ、初めての方にも分かりやすい。 ・避難訓練は、メディアより身近に感じ、個人で意識して行動できていた。 ・子どもの成長に大切な小学生の時に、心の教育を十分に行っていくことで、広い世界に自然に入っていくのではないかとと思う。生きる力の基本になる領域ではないかと思う。 	A
		②	生徒指導の充実	◎				
		③	教育相談体制の整備	◎				
	★	④	いじめ・不登校対策の強化	◎				
		⑤	防災・安全教育の充実	◎				
		⑥	施設・設備の適切な管理	○				
		⑦	学校・家庭・地域との連携強化と信頼関係づくり	◎				
III 学校における働き方改革の推進	★	①	効率的な業務推進と改善	○	<p>①会議資料を印刷せず、PC上のデータを共有することで、ペーパーレス化を図ることができた。しかし、会議自体は、予定時間を少し過ぎてしまうことがあったので、連絡掲示板の活用をもっと進めていく必要があった。 ②職場は、いつも明るく和やかな雰囲気があり、職員間の関係も良好だった。また、学校全体で取り組む際は、全職員で協力して取り組むことができた。 ③毎週1回定時退庁日を設定し、仕事を効率的に進める意識が高まった（毎月45時間以上の超過勤務者0）。 ④課題や諸問題が発生した場合は、すぐに「報告・連絡・相談」を密に行い、組織的に対応することができた。 ⑤各学期末に、校務分掌部会を開き、自由な発想で新たな取組を考え、次の学期に実施することができた。新しいことを始める場合、やめてもよいことをやめた上で、新しいことを取り入れるようにするなど、スクラップ＆ビルドの意識をもって業務改善に努め、効率的に業務を行うことができた。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・二小の先生方が何にでも協力して、楽しく行動されている。先生方が明るいと子どもたちも明るく元気に過ごせると思う。 ・PC上でペーパーレス化を図ることができており、メモとしてペーパーを活用されている。 ・職員が常に同じ方向性で問題を共有されているから、大きな問題も起こってはいないと思う。 	A
		②	同僚性、協働性の強化	◎				
		③	勤務時間等の適正な管理	◎				
	★	④	目標に向かう職員参画	◎				
	★	⑤	校務分掌の見直し	◎				

※4 学校関係者評価として、A（十分に達成できている）、B（概ね達成できている）、C（あまり達成できていない）、D（全く達成できていない）で評価する。